

## まえがき

20世紀末のスラブ・ユーラシア地域における政治・文化的アイデンティティの変化を受けて、現代のロシア文化研究は、対象地域の枠組みから分野や手法のあり方まで、さまざまな試行を迫られています。

われわれの共同研究は、東西文化の対話と対抗という伝統的な問題枠を再活性化することにより、この地域の文化史の再考を試みるもので、いわゆる文化芸術の諸学のほかに、地理、歴史、文化人類学、教育学、思想史、ディアスポラやジェンダー研究といったさまざまな方向からのアプローチを意図しています。また研究の姿勢として、国内外のさまざまな研究集団との協力や連携を試みています。

本論集の元になったシンポジウム（2006年2月18日（土）19日（日）スラブ研究センター）も、「スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗のパラダイム」（科学研究費研究）、「プラトンとロシア」（21世紀COE研究プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」）、「越境と多文化」（学術振興会人文社会科学振興プロジェクトV-1、第2グループ）の3研究集団の協力プログラムでした。

本論集はその成果のうちで、近現代ロシア文化史の観点から見て興味深い東西文化論を含むものを中心に収録しました。ご一読の上、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

2007年8月

スラブ研究センター

望月哲男